

\*\*\*\*\* 事 \*\*\*\*\*

消 息

矢数道明先生顕彰碑建立

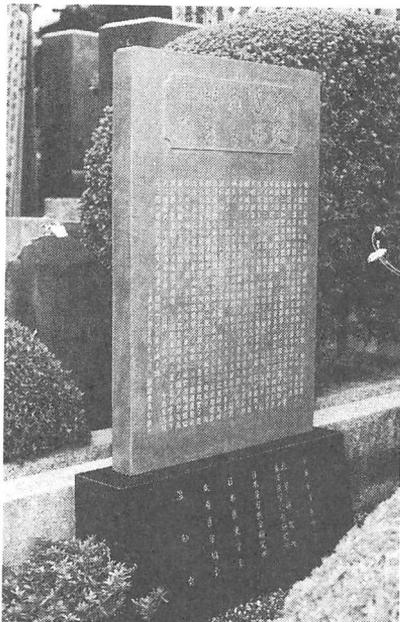
小曾戸 洋

本会名誉会員かつ本会に矢数医史学賞を設けられた矢数道明先生の顕彰碑が、平成十六年十月十日、本会も協賛して竣工された。

建碑地は東京都文京区小石川三丁目の伝通院にある矢数家墓域内。伝通院は浄土宗の名刹で十八檀林の一つ。応永二十二年(一四一五)聖岡せいこうによって開創され寿経寺と称したが、慶長七年(一六〇二)徳川家康の生母・伝通院殿を埋葬したことから伝通院と改称された。千姫や清河八郎・古泉千樞・佐藤春夫・柴田鍊三郎・杉浦重剛墓などもある。

この顕彰碑は、かつて矢数道明先生が主導して建てられた大塚敬節先生顕彰碑をモデルとしたものである。敬

節先生没後、道明先生は尊敬する敬節先生の顕彰碑を建立することを企て、関連団体に働きかけ、敬節先生七回忌の昭和六十一年十月十五日にこれを実現された(都下多磨霊園・大塚家墓域内)。小曾戸はこのとき道明先生の督励のもと、各団体からの集金や、碑文の文案作りを担当した。当時の道明先生から小曾戸への指示書がいまも手もとに残っている。日本東洋医学会・北里東洋医学総合研究所・日本漢方医学研究所・日本医史学会・東亜医学協会・修琴堂同門会の六団体が協賛し、碑の扁題は道明先生自ら揮毫された。碑文の文字は二二行×三五字。



今回の建碑はこれに倣うことにしたが、墓域の条件から、碑材は石材からブロンズ（青銅）に変更、大きさも縮小して縦一二〇cm×横七五〇cm。扁題の字は大塚恭男先生の筆。碑文の文字数は敬節先生のとほぼ同じく七三四字。矢数圭堂先生が最終校訂された。協賛団体は敬節先生の修琴堂同門会にかわって道明先生の門人会・温知会が加わった。他は同じく、計六団体。その協賛組織名は、黒御影石で作られた台座に刻してある。

碑の製作は高橋史雄事務所（港区六本木三）が担当。碑文は顔真卿書体の既製文字を使用した陰刻（凹）であるが、扁題字はブロンズの性格から陽刻（凸）がよいという意見があり、それに従った。道明先生はどのようなものを好まれるか。それは道明先生が敬節先生に対してなされたことを模範にすればよいと、条件の許す限りこれに準じたが、いま天界の道明先生はいかに思し召しだろうか。

伝通院の墓域は広大だから、矢数家の墓を目星もなく探し当てるのは容易ではない。墓地の入口の受付に尋ねれば、係の僧が台帳を繰って案内してくれると思う。

## 例会記録

三月例会 平成十七年三月二十六日

順天堂大学医学部九号館二階八番教室

一、表現技術が育てた一六〜一七世紀の解剖学

坂井 建雄

一、アーチボルド・ガロッドのパラダイム——先天代謝異常症の歴史

深瀬 泰旦

四月例会 平成十七年四月二十三日

順天堂大学医学部十号館四階四〇三号室

一、「バージニア・オルソン物語」執筆で得たGHQ看護改革に関する情報

大石 杉乃

一、近代日本の歴史疫学データベース——紹介と実演

鈴木 晃仁

五月例会 平成十七年五月二十八日

順天堂大学医学部九号館二階八番教室

一、ロンドンの病院を訪ねて——CAREとCUREの交響——

柳澤 波香

一、大分県公文書館所蔵『昭和十五年監置精神病者に関する綴』

柳澤 波香

一、大分県公文書館所蔵『昭和十五年監置精神病者に関する綴』

橋本 明

解題